(12) 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局

(43) 国際公開日
2021年12月23日(23.12.2021)

WIPO | PCT

(10) 国際公開番号
WO 2021/256345 A1

(51) 国際特許分類:
A61F 13/493 (2006.01) *A61F 13/505* (2006.01)
A61F 13/494 (2006.01) *A61F 13/56* (2006.01)

(21) 国際出願番号： PCT/JP2021/021931

(22) 国際出願日： 2021年6月9日(09.06.2021)

(25) 国際出願の言語： 日本語

(26) 国際公開の言語： 日本語

(30) 優先権データ：
特願 2020-106505 2020年6月19日(19.06.2020) JP

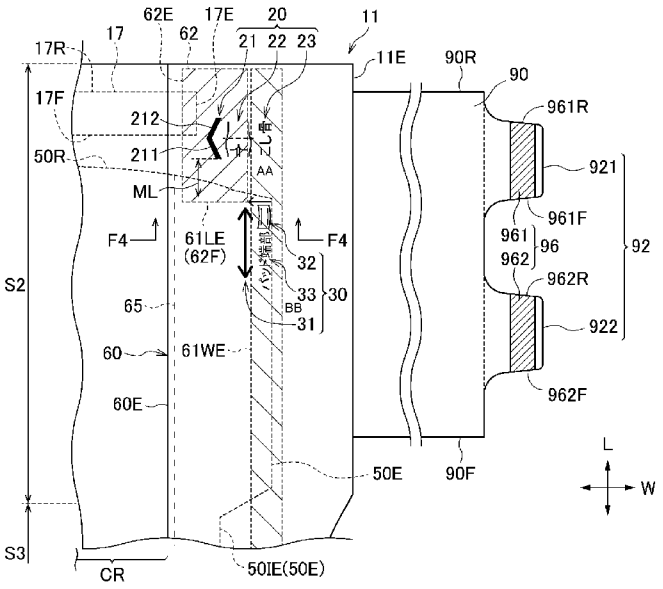
(71) 出願人:ユニ・チャーム株式会社(**UNICHARM CORPORATION**) [JP/JP]; 〒7990111 愛媛県四国中央市金生町下分１８２番地 Ehime (JP).

(72) 発明者: 宮 前 直 夢 (**MIYAMAE, Naomu**); 〒7691602 香川県観音寺市豊浜町和田浜１５３１－７ ユニ・チャーム株式会社テクニカルセンター内 Kagawa (JP). 梨子木 健人(**NASHIKI, Kento**); 〒7691602 香川県観音寺市豊浜町和田浜１５３１－７ ユニ・チャーム株式会社テクニカルセンター内 Kagawa (JP). 出口 光宏 (**DEGUCHI, Mitsuhiro**); 〒7691602 香川県観音寺市豊浜町和田浜１５３１－７ ユニ・チャーム株式会社テクニカルセンター内 Kagawa (JP).

(74) 代理人:小澤特許業務法人(**OZAWA IP FIRM**); 〒1050004 東京都港区新橋二丁目１１－１０ＢＵＲＥＸＦＩＶＥ９０５ Tokyo (JP).

(54) **Title:** ABSORBENT ARTICLE

(54) 発明の名称： 吸収性物品



AA Hip bone
BB Pad end part

(57) **Abstract:** Provided is an absorbent article that has a pair of leak-prevention cuffs. The absorbent article can have an absorption pad installed thereon and makes it easy for the absorption pad to be placed on a non-skin-facing side of rising parts. An absorbent article (10) that has a pair of leak-prevention cuffs (60) that extend in the front-rear direction (L) on either side of the width center (WC) of the absorbent article (10). The leak-prevention cuffs (60) have a rising part (61) that can rise from a rise edge (60WE) toward a skin-facing side (T1) as a result of contraction in the front-rear

WO 2021/256345 A1

［続葉有］

(81) 指定国(表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BN, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DJ, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IR, IS, IT, JO, KE, KG, KH, KN, KP, KR, KW, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PA, PE, PG, PH, PL, PT, QA, RO, RS, RU, RW, SA, SC, SD, SE, SG, SK, SL, ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, WS, ZA, ZM, ZW.

(84) 指定国(表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, RW, SD, SL, ST, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, RS, SE, SI, SK, SM, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, KM, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

添付公開書類:

— 国際調査報告(条約第21条(3))

direction (L) and a front-rear bonded part (62) that is further to the outside in the front-rear direction (L) than the rising part (61) and is bonded so as to be incapable of rising toward the skin-facing side (T1). An absorption pad (100) can be installed on the absorbent article (10). The absorbent article (10) has a pad marker part (30) that indicates where an end part of the absorption pad (100) is to be positioned in the front-rear direction (L). At least a portion of the pad marker part (30) is further to the outside in the width direction (W) than the rise edge 60WE and further to the inside in the front-rear direction (L) than the front-rear bonded part (62).

(57) 要約:一対の防漏カフを有し、かつ吸収パッドを装着可能である吸収性物品であって、起立部の非肌面側へ吸収パッドを入れ込むことを誘導し易い吸収性物品を提供する。吸収性物品(１０)は、前後方向(Ｌ)に延び、かつ吸収性物品(１０)の幅中心(ＷＣ)を挟んで両側に配置された一対の防漏カフ(６０)と、を有する。防漏カフ(６０)は、前後方向(Ｌ)における収縮により起立端縁(６０ＷＥ)から肌面側(Ｔ１)に向かって起立可能な起立部(６１)と、起立部(６１)よりも前後方向(Ｌ)の外側に位置し、かつ肌面側(Ｔ１)に向かって起立不能に接合された前後接合部(６２)と、を有する。吸収性物品(１０)は、吸収パッド(１００)を装着可能である。吸収性物品(１０)は、前後方向(Ｌ)における吸収パッド(１００)の端部の配置位置を示すパッド目印部(３０)を有する。パッド目印部(３０)の少なくとも一部は、起立端縁６０ＷＥよりも幅方向(Wの)外側かつ前後接合部(６２)よりも前後方向(Ｌ)の内側に配置される。

明　細　書

発明の名称 ： 吸収性物品

技術分野

[0001]　本発明は、一対の防漏カフを有し、かつ吸収パッドを装着可能である吸収性物品に関する。

背景技術

[0002]　特許文献１には、一対の防漏カフを有し、かつ吸収パッドを装着可能である吸収性物品が開示されている。防漏カフは、前後方向における収縮により肌面側に向かって起立可能な起立部を有する。装着補助者は、吸収性物品に吸収パッドを装着する際に、起立部の非肌面側へ吸収パッドを入れ込むことで、起立部間に吸収パッドが配置される。これにより、排泄物が吸収パッドから幅方向に漏れ出たとしても、吸収性物品の起立部によって塞き止めることができる。

先行技術文献

特許文献

[0003] 特許文献1：特開２０１８－１２２０１４号公報

発明の概要

[0004]　しかしながら、吸収性物品の装着前の状態では、起立部がしっかりと起立しておらず、装着補助者は、防漏カフを意識しないことがあった。このため、装着補助者は、吸収性物品に吸収パッドを装着する際に、起立部の非肌面側へ吸収パッドを入れ込まずに、吸収パッドを防漏カフ上（すなわち、起立部の肌面側）に載せることがあった。この場合、吸収パッドによって起立部の起立が妨害されるため、排泄物の横漏れが発生し易かった。また、吸収パッドが固定されていないため、着用者の動きによって吸収パッドがずれて、吸収性物品の装着感が悪化する虞があった。

[0005]　そこで、一対の防漏カフを有し、かつ吸収パッドを装着可能である吸収性物品であって、起立部の非肌面側へ吸収パッドを入れ込むことを誘導し易い

吸収性物品を提供することを目的とする。

[0006] 一態様に係る吸収性物品は、前後方向及び前記前後方向に直交する幅方向と、前記前後方向に延び、かつ吸収性物品の前記幅方向の中心である幅中心を挟んで両側に配置された一対の防漏カフと、を有する。前記防漏カフは、前記前後方向における収縮により起立端縁から肌面側に向かって起立可能な起立部と、前記起立部よりも前記前後方向の外側に位置し、かつ前記肌面側に向かって起立不能に接合された前後接合部と、を有する。吸収性物品は、吸収パッドを装着可能である。吸収性物品は、前記前後方向における前記吸収パッドの端部の配置位置を示す目印部を有する。前記目印部の少なくとも一部は、前記起立端縁よりも前記幅方向の外側かつ前記前後接合部よりも前記前後方向の内側に配置される。

図面の簡単な説明

[0007] [図1]図１は、実施形態に係る吸収性物品を肌面側から見た模式的な平面図である。

[図2]図２は、図１に示すＦ２－Ｆ２線の模式的な断面図である。

[図3]図３は、実施形態に係る吸収性物品を肌面側から見た模式的な一部拡大平面図である。

[図4]図４は、図３に示すＦ４－Ｆ４線の模式的な断面図である。

[図5]図５Ａは、実施形態に係る吸収性物品に吸収パッドが装着された状態において吸収性物品を肌面側から見た模式的な平面図であり、図５Ｂは、図５Ａの吸収性物品の模式的な一部拡大平面図である。

[図6]図６は、実施形態に係る吸収性物品の装着状態を説明するための図である。

[図7]図７は、実施形態に係る吸収性物品の装着状態を説明するための図である。

[図8]図８は、実施形態に係る吸収性物品の装着状態を説明するための図である。

発明を実施するための形態

[0008] （１）実施形態の概要

一態様に係る吸収性物品は、前後方向及び前記前後方向に直交する幅方向と、前記前後方向に延び、かつ吸収性物品の前記幅方向の中心である幅中心を挟んで両側に配置された一対の防漏カフと、を有する。前記防漏カフは、前記前後方向における収縮により起立端縁から肌面側に向かって起立可能な起立部と、前記起立部よりも前記前後方向の外側に位置し、かつ前記肌面側に向かって起立不能に接合された前後接合部と、を有する。吸収性物品は、吸収パッドを装着可能である。吸収性物品は、前記前後方向における前記吸収パッドの端部の配置位置を示す目印部を有する。前記目印部の少なくとも一部は、前記起立端縁よりも前記幅方向の外側かつ前記前後接合部よりも前記前後方向の内側に配置される。

[0009] 装着補助者が、目印部によって示される配置位置に吸収パッドの端部の位置を合わせる際に、目印部を視認するだけでなく、吸収性物品の幅中心に吸収パッドの幅方向の中心の位置を合わせるために幅中心を視認する。従って、上述の吸収性物品では、目印部の少なくとも一部が、起立端縁よりも幅方向の外側かつ前後接合部よりも前後方向の内側に配置されるため、装着補助者が、目印部と幅中心とを視認しながら吸収パッドの装着位置を調整する際に、起立部が視覚に入り易くなる。これにより、装着補助者が起立部を視認することで、防漏カフを意識し易くなり、装着補助者が起立部の非肌面側へ吸収パッドを入れ込むことを誘導できる。

[0010] 好ましい一態様によれば、前記前後接合部から前記目印部までの長さは、前記前後方向における前記目印部の最大長さよりも短くてよい。これにより、目印部が前後接合部に近くに配置されているため、前後方向における起立部の起立端縁（すなわち、前後接合部の内端縁）と幅方向における起立部の起立端縁とにより構成されるポケット（空間）の角部が視覚に入り易くなる。吸収パッドの端部の外側縁（すなわち、角部）は、ポケットの角部付近に入れ易いため、装着補助者に、ポケットの角部を意識させることで、装着補助者が起立部の非肌面側へ吸収パッドを入れ込むことを誘導できる。また、

ポケットの角部は、起立部が起立し始める部分であるため、ポケットの角部の周辺は、起立部の起立高さが低くなる。吸収パッドをポケットの角部付近に入れ込むことで、吸収パッドが幅方向だけでなく、前後方向にもずれ難くなる。その結果、吸収パッドの吸収性能を十分に発揮できたり、吸収パッドのずれによる装着感の悪化を抑制できたりする。

[0011] 好ましい一態様によれば、前記吸収性物品は、前胴回り域、後胴回り域、及び前記前胴回り域及び前記後胴回り域との間に配置された股下域と、前記後胴回り域に配置され、かつ前記前胴回り域に止着されるファスニングテープと、を有してよい。前記目印部の少なくとも一部は、前記ファスニングテープの前端縁よりも後方に配置されてよい。ファスニングテープが前胴回り域に止着されることで、ファスニングテープの前端縁よりも後側の領域が着用者の身体に密着するため、吸収パッドが理想的な位置からずれ難くなる。その結果、吸収パッドの吸収性能を十分に発揮できたり、吸収パッドのずれによる装着感の悪化を抑制できたりする。

[0012] 好ましい一態様によれば、前記目印部の少なくとも一部は、前記ファスニングテープの後端縁よりも前方に配置されてよい。これにより、吸収パッドの位置を目印部に合わせた状態で、ファスニングテープが前胴回り域に止着されることで、ファスニングテープの前端縁と後端縁との間の領域が着用者の身体に密着するため、吸収パッドの端部の位置が目印部からさらにずれ難くなる。

[0013] 好ましい一態様によれば、前記吸収性物品は、吸収コアを有してよい。前記目印部の少なくとも一部は、前記吸収コアの外側縁よりも前記幅方向の内側で前記吸収コアと厚さ方向に重なる位置に配置されてよい。一般的に、吸収パッドの端部は、吸収パッドから排泄物が漏れ出ても吸収コアが漏れ出た排泄物を吸収できるように、吸収コアの外側縁よりも幅方向の内側に配置される。目印部の少なくとも一部が吸収コアの外側縁よりも幅方向の内側に配置されることで、吸収パッドの端部が吸収コアと重なるように、装着補助者が、吸収性物品に吸収パッドを正しく装着し易くなる。

[0014] 好ましい一態様によれば、前記目印部は、前記防漏カフを構成するシートよりも非肌面側に配置されてよい。これにより、目印部が、着用者の肌に直接接触しないため、目印部に起因した着用者の肌への影響（例えば、目印部がインクによる印字により設けられる場合、肌へのインク移り、又はインクによる肌へのダメージなど）を抑制できる。

[0015] 好ましい一態様によれば、前記目印部は、前記起立端縁を跨ぐように配置されてよい。起立端縁よりも幅方向の内側の領域では、目印部が起立部によってはっきりとは視認できない一方で、起立端縁よりも幅方向の外側の領域では、防漏カフを構成するシートが固定されているため、目印部が、シートよりも非肌面側に配置されていても、上記内側の領域よりも目印部を明瞭に視認し易い。このため、装着補助者が、内側の領域における目印部を明瞭に視認しようとして起立部をめくり易くなる。起立部のめくりを誘導することで、装着補助者が起立部の非肌面側へ吸収パッドを入れ込むことを誘導できる。

[0016] 好ましい一態様によれば、前記吸収性物品は、収縮性を有する収縮部材を有してよい。前記目印部は、前記収縮部材と厚さ方向に重ならない領域に配置されてよい。これにより、目印部が配置されている領域が収縮部材の収縮により収縮し難くなり、目印部の視認性が低下することを抑制できる。

[0017] 好ましい一態様によれば、前記目印部は、前記吸収パッドの端部の配置位置の前記前後方向の範囲を示してよい。これにより、装着補助者は、目印部で示された範囲内で吸収パッドの端部の配置を自由に調整できることを想起できる。適切な装着のために吸収パッドの端部をピンポイントに配置しなければならないという装着補助者の精神的負荷を低減できる。また、吸収パッドの端部をピンポイントに配置する場合と比較して、吸収パッドの端部の配置位置を調整する時間を低減できるため、装着時間を短縮し易くなる。また、吸収パッドのサイズは、吸収パッドを製造する製造業者によって異なることがある。装着補助者は、目印部で示された範囲内で吸収パッドの端部の配置を自由に調整できるため、吸収性物品に装着される吸収パッドが制限され

難くなると共に、吸収パッドをより適切な位置に配置することができる。また、複数の装着補助者が、着用者に吸収性物品を装着する場合であっても、目印部が吸収パッドの端部の配置位置をピンポイントで示す場合と比較して、各装着補助者が目印部で示された範囲内に、吸収パッドの端部の配置を自由に調整できる。従って、複数の装着補助者のそれぞれが、吸収性物品に吸収パッドを適切に装着できる。

[0018] 好ましい一態様によれば、前記目印部は、前記目印部が前記吸収パッドを装着するための目印であることを図形により示してよい。これにより、装着補助者は、目印部が吸収パッドを装着するためのものであることを理解し易くなる。着用者の身体などの他のものを目印部に合わせ難くなり、吸収性物品に吸収パッドを適切に装着できる。

[0019] 好ましい一態様によれば、前記目印部は、前記目印部が前記吸収パッドを装着するための目印であることを文字により示してよい。これにより、文字を視認した装着補助者は、目印部によって吸収パッドを配置すべきことが認識できるため、装着補助者が、目印部を基準として着用者の身体などの別のものを誤って配置することを低減できる。

[0020] 好ましい一態様によれば、前記吸収性物品は、前記目印部と異なるデザインにより構成されている他の目印部を有してよい。前記目印部と前記他の目印部とは、前記前後方向において離れてよい。これにより、着用者は、目印部が他の目印部と異なるものであることを認識し易くなり、吸収パッドの端部を誤って他の目印部の位置に合わせることを低減できる。

[0021] 好ましい一態様によれば、前記目印部の少なくとも一部は、前記他の目印部と前記前後方向に重なってよい。これにより、他の目印部を発見した際に、視線を前後方向に動かすことで目印部を発見できるため、装着補助者が目印部を発見し易くできる。従って、目印部を発見した装着補助者は、目印部を基準として吸収パッドの端部の位置を合わせるため、防漏カフを意識し易くなり、装着補助者が起立部の非肌面側へ吸収パッドを入れ込むことを誘導できる。

[0022] 以下の実施形態では、請求項に記載の「目印部」は、パッド目印部に対応し、請求項に記載の「他の目印部」は、身体目印部に対応する。

[0023] （２）吸収性物品の全体概略構成

以下、図面を参照して、実施形態に係る吸収性物品について説明する。なお、以下の図面の記載において、同一又は類似の部分には、同一又は類似の符号を付している。ただし、図面は模式的なものであり、各寸法の比率等は現実のものとは異なることに留意すべきである。したがって、具体的な寸法等は、以下の説明を参酌して判断すべきである。また、図面相互間においても互いの寸法の関係や比率が異なる部分が含まれ得る。また、本発明における長さや位置関係を比較する際は、特段の言及がない限り、伸縮性部材による皺が形成されない状態まで吸収性物品を伸長させた伸長状態の吸収性物品を用いる。なお、図４は、図３に示すＦ４－Ｆ４線において、後述の起立部６１が起立した状態を示す。

[0024] 本実施形態に係る吸収性物品は、大人用の使い捨ておむつである。吸収性物品は、例えば介護者のような装着補助者が要介護者のような着用者（特に、高齢者）に装着させるタイプのものであることが好ましい。また、本実施形態では、吸収性物品１０は、吸収パッド１００を装着可能である。吸収パッド１００は、吸収性物品１０の肌面側において吸収性物品１０に装着される。

[0025] 吸収性物品１０は、前後方向Ｌ及び幅方向Ｗを有する。前後方向Ｌは、着用者の身体前側と身体後側とに延びる。幅方向Ｗは、前後方向Ｌに直交する。吸収性物品１０は、前後方向Ｌ及び幅方向Ｗに直交する厚さ方向Ｔを有する。本明細書において、「肌面側」は、使用中に着用者の肌に面する側に相当する。「非肌面側」は、使用中に着用者の肌とは反対に向けられる側に相当する。厚さ方向Ｔは、肌面側Ｔ１と非肌面側Ｔ２とに延びる。

[0026] 吸収性物品１０は、前胴回り域Ｓ１と、後胴回り域Ｓ２と、股下域Ｓ３と、を有する。前胴回り域Ｓ１は、使用時に着用者の身体前側に面する。後胴回り域Ｓ２は、使用時に着用者の身体後側に面する。股下域Ｓ３は、前胴回

り域Ｓ１と後胴回り域Ｓ２との間に配置される。股下域Ｓ３は、使用時に着用者の股下に配置される。股下域Ｓ３は、脚回り開口部１５が設けられた領域であり、前胴回り域Ｓ１と股下域Ｓ３との境界は、脚回り開口部１５の前端縁によって規定され、後胴回り域Ｓ２と股下域Ｓ３との境界は、脚回り開口部１５の後端縁によって規定されてよい。

[0027] 吸収性物品１０は、少なくとも股下域Ｓ３に配置された吸収コア５０を有してよい。吸収コア５０は、股下域Ｓ３から前胴回り域Ｓ１及び後胴回り域Ｓ２へ延びていてよい。吸収コア５０は、例えば粉砕パルプもしくは高吸収性ポリマー（ＳＡＰ）、又はこれらの混合物を含む吸収性材料の積層体であってよい。なお、吸収コア５０の外側縁５０Ｅは、幅方向Ｗにおいて最も内側の外側縁５０ＩＥを有する。吸収性物品１０は、吸収コア５０と、図示しないコアラップと、を含む吸収体を有してよい。コアラップは、吸収コア５０を覆うように配置され、例えば、ティッシュや不織布シートであってよい。

[0028] 吸収性物品１０は、吸収コア５０の肌面側Ｔ１に位置する肌面シート４１と、吸収コア５０の非肌面側Ｔ２に位置する非肌面シート４２と、を有してよい。肌面シート４１は、トップシート４１ａと、サイドシート４１ｂと、を有してよい。トップシート４１ａは、液透過性を有し、吸収コア５０の少なくとも幅方向Ｗの中心を覆うように配置されてよい。サイドシート４１ｂは、疎水性を有する不織布からなり、吸収コア５０の幅方向Ｗの中心よりも幅方向Ｗの外側において、幅方向Ｗにおけるトップシート４１ａの両側部を覆うように配置されてよい。非肌面シート４２は、液不透過性を有し、吸収コア５０よりも非肌面側に設けられてよい。非肌面シート４２は、液不透過性のバックフィルム４２ａと、バックフィルム４２ａの非肌面側に配置されたバック不織布４２ｂと、を有してよい。

[0029] 吸収性物品１０は、一対の防漏カフ６０を有してよい。一対の防漏カフ６０は、少なくとも股下域Ｓ３において前後方向Ｌに延びている。一対の防漏カフ６０は、吸収性物品１０の幅方向Ｗの中心である幅中心ＷＣを挟んで両

側に配置されている。一対の防漏カフ６０は、起立部６１と、前後接合部６２と、幅接合部６３と、防漏弾性部材６５と、を有してよい。

[0030] 起立部６１は、前後方向Ｌにおける収縮により肌面側Ｔ１に向かって起立可能である。前後接合部６２は、起立部６１よりも前後方向Ｌの外側に位置し、かつ肌面側Ｔ１に向かって起立不能に接合されている。前後接合部６２は、幅中心ＷＣ側に位置する内側縁６２Ｅと、股間部側に位置する内端縁（すなわち、後胴回り域Ｓ２における前後接合部６２の前端縁６２Ｆ）と、を有する。幅接合部６３は、起立部６１よりも幅方向Ｗの外側に位置し、かつ肌面側Ｔ１に向かって起立不能に接合されている。防漏弾性部材６５は、前後方向Ｌに伸長した状態でサイドシート４１ｂに配置されている。防漏弾性部材６５は、サイドシート４１ｂに挟まれて固定されてよい。防漏弾性部材６５の収縮により、起立部６１が前後方向Ｌに収縮し、起立できる。図４に示すように、起立部６１は、幅方向Ｗにおける起立端縁６１ＷＥから起立を開始する。起立端縁６１ＷＥは、幅方向Ｗにおける幅接合部６３の内側縁により構成される。また、起立部６１は、前後方向Ｌにおける起立端縁６１ＬＥから起立を開始する。起立端縁６１ＬＥは、前後方向Ｌにおける前後接合部６２の股間部側に位置する内端縁により構成される。

[0031] 吸収性物品１０は、脚回り開口部１５に配置され、かつ前後方向Ｌに伸縮性を有する脚回り弾性部材１６を有してよい。脚回り弾性部材１６は、前後方向Ｌに延びており、脚回り開口部１５に沿って配置されてよい。これにより、脚回り開口部１５を着用者の脚回りにフィットさせる。図３に示すように、吸収性物品１０は、後胴回り域Ｓ２において幅方向Ｗに伸縮性を有するウエスト弾性部材１７を有してよい。ウエスト弾性部材１７は、幅方向Ｗに延びており、吸収性物品１０の幅方向Ｗの中心を跨がってよい。

[0032] 吸収性物品１０は、吸収性本体１１とファスニングテープ９０とを有する。吸収性本体１１は、少なくとも吸収コア５０、肌面シート４１、非肌面シート４２により構成される。ファスニングテープ９０は、後胴回り域Ｓ２に配置され、かつ前胴回り域Ｓ１に止着される。ファスニングテープ９０は、

後胴回り域Ｓ２の幅方向Ｗの両外側部に設けられる。ファスニングテープ９０は、後胴回り域Ｓ２において、吸収性本体１１の外側縁１１Ｅから幅方向Ｗの外側へ延出する。ファスニングテープ９０は、ファスニングテープ９０の外側部の一部が幅方向Ｗの外側へ延出した延出部９２を有してよい。延出部９２の前後方向Ｌの長さは、ファスニングテープ９０の前後方向Ｌの長さよりも短い。延出部９２は、第１延出部９２１と、第１延出部９２１よりも前後方向Ｌの内側に位置する第２延出部９２２と、を有してよい。

[0033] ファスニングテープ９０は、前胴回り域Ｓ１に係合する係合部９６を有する。係合部９６が前胴回り域Ｓ１に係合することにより、ファスニングテープ９０が止着される。係合部９６は、延出部９２に設けられてよい。係合部９６は、前胴回り域Ｓ１に係合する第１係合部９６１と、第１係合部９６１よりも前後方向Ｌの内側で前胴回り域Ｓ１に係合する第２係合部９６２と、を有する。第１係合部９６１は、第１延出部９２１に設けられ、第２係合部９６２は、第２延出部９２２に設けられてよい。

[0034] （３）パッド目印部

次に、パッド目印部３０について説明する。吸収性物品１０は、前後方向Ｌにおける吸収パッド１００の端部の配置位置を示すパッド目印部３０を有する。パッド目印部３０は、吸収性物品１０に対して吸収パッド１００を適切な位置で装着するためのものである。パッド目印部３０は、吸収パッド１００の後端部１００Ｒの配置位置を示してよい。また、パッド目印部３０は、吸収パッド１００の後端部１００Ｒと外側部１００Ｅとにより構成される角部１００Ｃの配置位置を示してよい。パッド目印部３０は、幅方向Ｗにおいて、吸収性物品１０の幅中心ＷＣの両外側に配置される一対のパッド目印部３０により構成されてよい。

[0035] パッド目印部３０は、吸収性物品１０の肌面側Ｔ１から視認可能である。パッド目印部３０は、目視にて認識可能であればよい。例えば、L*a*b*表色系において、パッド目印部３０に隣接する周囲に対する色差ΔＥが８以上のパッド目印部３０は、視認可能である。パッド目印部３０は、例えば、油性

のインクを用いて吸収性物品１０に印刷することにより設けることができる。パッド目印部３０は、着色されたホットメルト型接着剤により設けられてよい。

[0036] パッド目印部３０は、前後方向Ｌにおいて最も前方に位置する前端縁３０Ｆと、前後方向Ｌにおいて最も後方に位置する後端縁３０Ｒと、を有してよい（図５Ｂ参照）。また、パッド目印部３０は、幅方向Ｗにおいて最も内側に位置する内側縁３０Ｉと、幅方向Ｗにおいて最も外側に位置する外側縁３００とを有してよい（図５Ｂ参照）。前後方向Ｌにおけるパッド目印部３０の最大長さ（すなわち、前端縁３０Ｆから後端縁３０Ｒまでの前後方向Ｌの長さ）は、例えば、２０ｍｍ以上であってよく、８０ｍｍ以下であってよい。幅方向Ｗにおけるパッド目印部３０の最大幅（すなわち、内側縁３０Ｉから外側縁３００までの幅方向Ｗの長さ）は、例えば、２０ｍｍ以上であってよく、８０ｍｍ以下であってよい。パッド目印部３０の最大長さ及び／又は最大幅が２０ｍｍ以上であることで、目視において、パッド目印部３０をはっきりと確認し易くできる。パッド目印部３０の最大長さ及び／又は最大幅が８０ｍｍ以下であることで、吸収パッド１００の端部の配置位置に対して、パッド目印部３０の大きさが必要以上に大きくならないため、装着補助者が、吸収パッド１００の端部の配置位置の範囲を把握し易くできる。

[0037] 図３に示すように、パッド目印部３０は、吸収パッド１００の端部の配置位置の前後方向Ｌの範囲を示す第１パッド目印部３１を有してよい。これにより、パッド目印部３０は、吸収パッド１００の端部の配置位置の前後方向Ｌの範囲を示してよい。第１パッド目印部３１は、吸収パッド１００の後端部１００Ｒの配置位置の前後方向Ｌの範囲を示してよい。第１パッド目印部３１は、例えば、前後方向Ｌに延びる両矢印により構成されてよい。両矢印の前端縁から両矢印の後端縁までの長さによって、吸収パッド１００の端部の配置位置の前後方向Ｌの範囲が示されてよい。前後方向Ｌにおける第１パッド目印部３１の長さは、例えば、２０ｍｍ以上であってよく、８０ｍｍ以下であってよい。前後方向Ｌにおける第１パッド目印部３１の長さは、例え

ば、吸収性物品１０がＳサイズ及びＭサイズである場合、２０ｍｍ以上６０ｍｍ以下であってよく、吸収性物品１０がＬサイズである場合、６０ｍｍ以上８０ｍｍ以下であってよい。

[0038] パッド目印部３０は、パッド目印部３０が吸収パッド１００を装着するための目印であることを図形により示す第２パッド目印部３２を有してよい。これにより、パッド目印部３０は、パッド目印部３０が吸収パッド１００を装着するための目印であることを図形により示してよい。図３に示すように、第２パッド目印部３２は、吸収パッド１００の図形により構成されてよい。第２パッド目印部３２は、吸収パッド１００の図形に加えて、幅方向の内側へ向かう矢印の図形により構成されてよい。

[0039] パッド目印部３０は、パッド目印部３０が吸収パッド１００を装着するための目印であることを文字により示す第３パッド目印部３３を有してよい。これにより、パッド目印部３０は、パッド目印部３０が吸収パッド１００を装着するための目印であることを文字により示してよい。実施形態では、第３パッド目印部３３は、「パッド端部」の文字により構成されている。第３パッド目印部３３は、例えば、「パッド」、「吸収パッド」などの文字により構成されてもよい。第３パッド目印部３３を構成する文字は、日本語で表記されてよいし、英語で表記されてよいし、他の言語（例えば、中国語）で表記されてよい。

[0040] 実施形態では、パッド目印部３０は、第１パッド目印部３１と、第２パッド目印部３２と、第３パッド目印部３３と、により構成されている。第１パッド目印部３１は、第２パッド目印部３２及び第３パッド目印部３３よりも幅方向Ｗの内側に配置されてよい。第３パッド目印部３３は、第２パッド目印部３２よりも前後方向Ｌの内側に配置されてよい。

[0041] パッド目印部３０の少なくとも一部は、前後接合部６２よりも前後方向Ｌの内側に配置される。パッド目印部３０は、前後接合部６２よりも前後方向Ｌの外側に配置されずに前後接合部６２よりも前後方向Ｌの内側に配置される。実施形態では、パッド目印部３０の少なくとも一部は、前後接合部６２

の前端縁６２Ｆよりも前方に配置される。パッド目印部３０は、前後接合部６２の前端縁６２Ｆよりも後方に配置されずに前端縁６２Ｆよりも前方に配置されてよい。また、パッド目印部３０の少なくとも一部は、後胴回り域Ｓ２に配置されてよい。パッド目印部３０は、股下域Ｓ３に配置されずに、後胴回り域Ｓ２に配置されてよい。また、パッド目印部３０の少なくとも一部は、ファスニングテープ９０の前端縁９０Ｆよりも後方に配置されてよい。パッド目印部３０の前端縁３０Ｆは、ファスニングテープ９０の前端縁９０Ｆよりも後方に配置されてよい。パッド目印部３０の少なくとも一部は、（ａ）ファスニングテープ９０の前後方向Ｌの中心よりも後方へ配置されてよいし、（ｂ）第２係合部９６２の前端縁９６２Ｆよりも後方に配置されてよいし、（ｃ）第２係合部９６２の後端縁９６２Ｒよりも後方に配置されてよいし、（ｄ）第１係合部９６１の前端縁９６１Ｆよりも後方へ配置されてよいし、（ｅ）第１係合部９６１の後端縁９６１Ｒよりも後方へ配置されてよい。パッド目印部３０の前端縁３０Fは、（ａ）ファスニングテープ９０の前後方向Ｌの中心よりも後方へ配置されてよいし、（ｂ）第２係合部９６２の前端縁９６２Ｆよりも後方に配置されてよいし、（ｃ）第２係合部９６２の後端縁９６２Ｒよりも後方に配置されてよいし、（ｄ）第１係合部９６１の前端縁９６１Ｆよりも後方へ配置されてよいし、（ｅ）第１係合部９６１の後端縁９６１Ｒよりも後方へ配置されてよい。

[0042] パッド目印部３０の少なくとも一部は、ファスニングテープ９０の後端縁９０Ｒよりも前方に配置されてよい。パッド目印部３０は、ファスニングテープ９０の後端縁９０Ｒよりも後方に配置されず、後端縁９０Ｒよりも前方に配置されてよい。パッド目印部３０の少なくとも一部は、（ａ）第１係合部９６１の後端縁９６１Ｒよりも前方へ配置されてよいし、（ｂ）第１係合部９６１の前端縁９６１Ｆよりも前方へ配置されてよいし、（ｃ）第２係合部９６２の後端縁９６２Ｒよりも前方に配置されてよいし、（ｄ）第２係合部９６２の前端縁９６２Ｆよりも前方に配置されてよい。パッド目印部３０の後端縁３０Ｒは、（ａ）第１係合部９６１の後端縁９６１Ｒよりも前方へ

配置されてよいし、（ｂ）第１係合部９６１の前端縁９６１Ｆよりも前方へ配置されてよいし、（ｃ）第２係合部９６２の後端縁９６２Ｒよりも前方に配置されてよいし、（ｄ）第２係合部９６２の前端縁９６２Ｆよりも前方に配置されてよい。また、パッド目印部３０の少なくとも一部は、ウエスト弾性部材１７の前端縁１７Ｆよりも前方へ配置されてよい。パッド目印部３０の後端縁３０Ｒは、ウエスト弾性部材１７の前端縁１７Ｆよりも前方へ配置されてよい。また、パッド目印部３０の全体が、ファスニングテープ９０（吸収性本体１１から幅方向の外側に延出するフラップ）から幅方向に延びる領域内に配置されてもよい。

[0043] 前後方向Ｌにおいて、パッド目印部３０の前端縁３０Ｆは、ファスニングテープ９０の前後方向Ｌの中心よりも前方に位置し、パッド目印部３０の後端縁３０Ｒは、ファスニングテープ９０の前後方向Ｌの中心よりも後方に位置してよい。また、前後方向Ｌにおいて、パッド目印部３０の前端縁３０Ｆは、係合部９６の最も後方の後端縁（実施形態では、第１係合部９６１の後端縁９６１Ｒ）と係合部９６の最も前方の前端縁（実施形態では、第２係合部９６２の前端縁９６２Ｆ）との前後方向Ｌの中心よりも前方に位置し、パッド目印部３０の後端縁３０Ｒは、当該中心よりも後方に位置してよい。

[0044] 図１及び図３に示すように、パッド目印部３０の少なくとも一部は、起立端縁６１ＷＥよりも幅方向Ｗの外側に配置される。パッド目印部３０の内側縁３０Ｉは、起立端縁６１ＷＥよりも幅方向Ｗの外側に配置されてよい。或いは、図４に示すように、パッド目印部３０は、起立端縁６１ＷＥを跨ぐように配置されてよい。従って、パッド目印部３０の内側縁３０Ｉは、起立端縁６１ＷＥよりも幅方向Ｗの内側に配置されてよく、パッド目印部３０の外側縁３００は、起立端縁６１ＷＥよりも幅方向Ｗの外側に配置されてよい。

[0045] パッド目印部３０の少なくとも一部は、吸収コア５０の外側縁５０Ｅよりも幅方向Ｗの内側に配置されてよい。パッド目印部３０の外側縁３００は、吸収コア５０の外側縁５０Ｅよりも幅方向Ｗの内側に配置されてよい。図４に示すように、パッド目印部３０の少なくとも一部は、吸収コア５０の外側

縁５０Ｅよりも幅方向Ｗの内側で吸収コア５０と厚さ方向Ｔに重なる位置に配置されてよい。パッド目印部３０の外側縁３００は、（ａ）トップシート４１ａの外側縁よりも幅方向Ｗの内側に配置されてよいし、（ｂ）幅接合部６３の外側縁よりも幅方向Ｗの内側に配置されてよい。

[0046] 前後接合部６２からパッド目印部３０までの長さは、前後方向Ｌにおけるパッド目印部３０の最大長さよりも短くてよい。図１等に示すように、後胴回り域Ｓ２では、前後接合部６２からパッド目印部３０までの長さは、前後方向Ｌの内側へ向かう方向において、前後接合部６２の前端縁６２Ｆからパッド目印部３０の後端縁３０Ｒまでの長さである。本実施形態では、パッド目印部３０は、前後接合部６２の前端縁６２Ｆを跨がっているため、前後接合部６２からパッド目印部３０までの長さは、０である。前後接合部６２からパッド目印部３０までの長さは、例えば、８０ｍｍ以下であってよい。

[0047] 図４に示すように、パッド目印部３０は、防漏カフ６０を構成するシートよりも非肌面側Ｔ２に配置されてよい。本実施形態では、当該シートは、サイドシート４１ｂである。当該シートは、光透過性を有する。シートは、例えば、不織布により構成されることで、光透過性を有してよい。パッド目印部３０は、トップシート４１ａの非肌面に設けられている。パッド目印部３０は、トップシート４１ａの肌面に設けられてもよく、サイドシート４１ｂの非肌面に設けられてもよい。パッド目印部３０は、吸収コア５０よりも肌面側Ｔ１に設けられてよい。

[0048] 吸収性物品１０は、収縮性を有する収縮部材を有してよい。本実施形態では、収縮部材は、脚回り弾性部材１６、ウエスト弾性部材１７、及び防漏弾性部材６５である。これらの弾性部材は、伸長された状態で吸収性物品１０を構成する構成部材に固定されるため、収縮性を有する。パッド目印部３０は、収縮部材と厚さ方向Ｔに重ならない領域に配置されてよい。

[0049] （４）身体目印部

次に、身体目印部２０について説明する。吸収性物品１０は、着用者の身体の一部の配置位置を示す身体目印部２０を有する。身体目印部２０は、着

用者の適切な位置で吸収性物品１０を装着するためのものである。身体目印部２０は、吸収性物品１０の肌面側Ｔ１から視認可能である。身体目印部２０は、目視にて認識可能であればよい。身体目印部２０は、例えば、油性のインクを用いて吸収性物品１０に印刷することにより設けることができる。身体目印部２０は、前後方向Ｌにおいて最も前方に位置する前端縁２０Ｆと、前後方向Ｌにおいて最も後方に位置する後端縁２０Ｒと、を有してよい（図５Ｂ参照）。また、身体目印部２０は、幅方向Ｗにおいて最も内側に位置する内側縁２０Ｉと、幅方向Ｗにおいて最も外側に位置する外側縁２００とを有してよい（図５Ｂ参照）。前後方向Ｌにおける身体目印部２０の最大長さ（すなわち、前端縁２０Ｆから後端縁２０Ｒまでの前後方向Ｌの長さ）は、例えば、２０ｍｍ以上であってよく、７０ｍｍ以下であってよい。幅方向Ｗにおける身体目印部２０の最大幅（すなわち、内側縁２０Ｉから外側縁２００までの幅方向Ｗの長さ）は、例えば、２０ｍｍ以上であってよく、７０ｍｍ以下であってよい。

[0050] 身体目印部２０の少なくとも一部は、着用者の骨の配置位置を示し、かつ幅方向Ｗにおける吸収性物品１０の中央領域ＣＲよりも幅方向の外側に配置される。身体目印部２０は、着用者の腸骨稜の配置位置を示してよい。本実施形態では、身体目印部２０は、着用者の骨として着用者の腸骨稜の配置位置を示すケースを例に挙げて説明する。身体目印部２０は、幅方向Ｗにおいて中央領域ＣＲの両外側に配置される一対の身体目印部２０により構成されてよい。なお、中央領域ＣＲは、（ａ）吸収性物品１０に皺が形成されない状態まで伸長させた伸長状態において防漏カフ６０の一方の内側縁６０Ｅから他方の内側縁６０Ｅまでの間の防漏カフ６０間の領域、及び、（ｂ）幅方向Ｗにおいて吸収コア５０の最も内側に位置する一方の外側縁５０ＩＥから他方の外側縁５０ＩＥまでの吸収コア５０間の領域（すなわち、吸収コア５０の最短幅の領域）のいずれか一方の領域である。中央領域ＣＲは、防漏カフ６０間の領域と吸収コア５０間の領域とのうち幅方向Ｗの長さが狭い領域であってよい。

[0051] 図３に示すように、身体目印部２０は、着用者の骨の配置位置の前後方向Ｌの範囲を示す第１身体目印部２１を有してよい。これにより、身体目印部２０は、着用者の骨の配置位置の前後方向Ｌの範囲を示してよい。第１身体目印部２１は、例えば、前後方向Ｌの外側へ向かうにつれて幅方向Ｗの内側へ延びる第１部分２１１と、第１部分２１１から前後方向Ｌの外側へ向かうにつれて幅方向Ｗの外側へ延びる第２部分２１２と、により構成されてよい。第１部分２１１の前端縁から第２部分の後端縁までの長さによって、着用者の骨の配置位置の前後方向Ｌの範囲が示されてよい。身体目印部２０は、吸収性物品１０が装着される装着部位と着用者の骨の配置位置とを図形により示す第２身体目印部２２を有してよい。これにより、身体目印部２０は、装着部位と着用者の骨の配置位置とを図形により示してよい。身体目印部２０は、身体目印部２０によって示される配置位置に配置すべき着用者の骨を文字により示す第３身体目印部２３を有してよい。これにより、身体目印部２０は、配置すべき着用者の骨を文字により示してよい。実施形態では、第３身体目印部２３は、「こし骨」の文字により構成されている。

[0052] 身体目印部２０の少なくとも一部は、後胴回り域Ｓ２に配置されてよい。身体目印部２０は、股下域Ｓ３に配置されずに、後胴回り域Ｓ２に配置されてよい。身体目印部２０は、後胴回り域Ｓ２に配置されてよい。図５Ｂに示すように、身体目印部２０の前端縁２０Ｆは、ファスニングテープ９０の前端縁９０Ｆよりも後方に配置されてよい。これにより、パッド目印部３０がファスニングテープ９０の前端縁９０Ｆよりも後方に配置されている場合、装着補助者がパッド目印部３０を装着する吸収性物品１０に装着する際に、身体目印部２０を視認し易くできる。また、身体目印部２０の全体が、ファスニングテープ９０（吸収性本体１１から幅方向の外側に延出するフラップ）から幅方向に延びる領域内に配置されてもよい。

[0053] 図３に示すように、身体目印部２０とパッド目印部３０とは互いに異なるデザインにより構成されてよい。身体目印部２０とパッド目印部３０とは、前後方向Ｌにおいて離れている。身体目印部２０からパッド目印部３０まで

の長さＭＬは、身体目印部２０の前後方向Ｌの最大長さの半分よりも長くてよい。これにより、身体目印部２０とパッド目印部３０とのそれぞれを識別し易くしてよい。また、長さＭＬは、身体目印部２０の前後方向Ｌの最大長さよりも長くてよい。長さＭＬは、例えば、２０ｍｍ以上離れていてよい。また、身体目印部２０は、パッド目印部３０よりも前後方向Ｌの内側に位置してよい。これにより、吸収パッド１００が装着された後でも、身体目印部２０を視認できる。なお、長さＭＬは、身体目印部２０の前後方向Ｌの最大長さの３倍以下であってよい。これにより、装着補助者がパッド目印部３０を装着する吸収性物品１０に装着する際に、身体目印部２０を視認し易くできる。

[0054] 身体目印部２０の少なくとも一部は、パッド目印部３０と前後方向Ｌに重なっていてよい。パッド目印部３０の少なくとも一部は、身体目印部２０と前後方向Ｌに重なっていてよい。幅方向Ｗにおいて、身体目印部２０の内側縁２０１は、パッド目印部３０の外側縁３００よりも幅方向Ｗの内側に位置し、身体目印部２０の外側縁２００は、パッド目印部３０の内側縁３０１よりも幅方向Ｗの外側に位置してよい。また、パッド目印部３０の内側縁３０１は、身体目印部２０の外側縁３００よりも幅方向Ｗの内側に位置し、パッド目印部３０の外側縁３００は、身体目印部２０の内側縁２０１よりも幅方向Ｗの外側に位置してよい。本実施形態では、幅方向Ｗにおいて、身体目印部２０の内側縁２０１は、パッド目印部３０の内側縁３０１よりも内側に位置する。また、文字により構成される第３身体目印部２３と第３パッド目印部３３とは、前後方向Ｌに重なってよい。これにより、文字が前後方向Ｌに沿って配列されているため、装着補助者が視線を前後方向Ｌにスライドさせるだけで文字を把握し易くなり、装着補助者の負担を軽減できる。

[0055] （５）装着方法

吸収性物品１０の装着方法の一例について説明する。第１に、装着補助者は、吸収性物品１０を展開し、パッド目印部３０を視認する。装着補助者は、パッド目印部３０を基準として、吸収パッド１００の後端部１００Ｒの位

置を合わせる。ここで、装着補助者は、パッド目印部３０によって示される配置位置に吸収パッド１００の後端部１００Ｒの位置を合わせる際に、パッド目印部３０を視認するだけでなく、吸収性物品１０の幅中心ＷＣに吸収パッド１００の幅方向Ｗの中心の位置を合わせるために幅中心ＷＣを視認する。これにより、装着補助者が、パッド目印部３０と幅中心ＷＣとを視認しながら吸収パッドの装着位置を調整する際に、起立部６１が視覚に入り易くなり、装着補助者が起立部６１の非肌面側Ｔ２へ吸収パッドを入れ込むことを誘導できる。図５に示すように、装着補助者は、吸収パッド１００の後端部１００Ｒを起立部６１の非肌面側Ｔ２へ入れ込むことで、吸収パッド１００を吸収性物品１０に装着する。

[0056] 次に、装着補助者は、着用者に吸収性物品１０を装着する。横向きに寝ている着用者の背側に、展開された吸収性物品１０をセットする。装着補助者は、身体目印部２０を基準として、吸収性物品１０の位置を調整する。具体的には、装着補助者は、身体目印部２０に着用者の骨の位置を合わせる。実施形態では、身体目印部２０と腸骨稜ＩＣとが幅方向Ｗにおいて重なるように、吸収性物品１０を移動して、吸収性物品１０の位置を調整する。腸骨稜ＩＣにより着用者の肌が出っ張っている場合には、装着補助者は、視覚により腸骨稜ＩＣの位置を認識してもよい。装着補助者は、着用者の腰の位置を触ることで腸骨稜ＩＣの位置を正確に認識してもよい。なお、装着補助者は、パッド目印部３０により示される範囲内で、吸収パッド１００の位置を調整してもよい。装着補助者は、例えば、着用者の臀部の割れ目が隠れるように吸収パッド１００の位置を調整してもよい。

[0057] 次に、図７に示すように、着用者の身体が吸収性物品１０に載り、吸収性物品１０上で着用者が仰向けになる。次に、吸収パッド１００の前側が着用者の股間部を覆うように吸収パッド１００の前側を持ち上げて、着用者の股間部にあてる。その後、吸収性物品１０の前側を持ち上げて、着用者の股間部及び腹部を覆うように吸収性物品１０の前側をあてる。これにより、図５Ａに示すように、吸収性物品１０の前胴回り域Ｓ１が着用者の腹部を覆う。

[0058] 次に、ファスニングテープ９０を前胴回り域Ｓ１に止着する。図５Ｂに示すように、着用者は、第２係合部９６２を前胴回り域Ｓ１に係合させる。着用者は、第２延出部９２２が幅方向Ｗに沿って延びるように第２係合部９６２を前胴回り域Ｓ１に係合してもよいし、図５Ｂに示すように、第２延出部９２２が着用者のウエスト側に傾斜するように第２係合部９６２を前胴回り域Ｓ１に係合してもよい（いわゆる、斜め止め）。その後、図５Ｃに示すように、着用者は、第１係合部９６１を前胴回り域Ｓ１に係合させる。着用者は、第１延出部９２１が幅方向Ｗに沿って延びるように第１延出部９２１を前胴回り域Ｓ１に係合してもよいし、図５Ｃに示すように、第１延出部９２１が着用者の股下側に傾斜するように第１延出部９２１を前胴回り域Ｓ１に係合してもよい（いわゆる、斜め止め）。着用者は、ファスニングテープ９０が腸骨稜ＩＣに引っ掛かるように、第１延出部９２１が前胴回り域Ｓ１に係合してもよい。このようにして、吸収性物品１０が着用者に装着されてよい。

[0059] 以上のように、本実施形態では、パッド目印部３０の少なくとも一部は、起立部６１の起立端縁６１ＷＥよりも幅方向Ｗの外側かつ前後接合部６２よりも前後方向Ｌの内側に配置される。装着補助者が、パッド目印部３０によって示される配置位置に吸収パッド１００の端部の位置を合わせる際に、パッド目印部３０を視認するだけでなく、吸収性物品１０の幅中心ＷＣに吸収パッド１００の幅方向Ｗの中心の位置を合わせるために幅中心ＷＣを視認する。従って、吸収性物品１０では、パッド目印部３０の少なくとも一部が、起立端縁６１ＷＥよりも幅方向Ｗの外側かつ前後接合部６２よりも前後方向Ｌの内側に配置されるため、装着補助者が、パッド目印部３０と幅中心ＷＣとを視認しながら吸収パッド１００の装着位置を調整する際に、起立部６１が視覚に入り易くなる。これにより、装着補助者が起立部６１を視認することで、防漏カフ６０を意識し易くなり、装着補助者が起立部６１の非肌面側Ｔ２へ吸収パッド１００を入れ込むことを誘導できる。

[0060] また、前後接合部６２からパッド目印部３０までの長さは、前後方向Ｌに

おけるパッド目印部３０の最大長さよりも短くてよい。これにより、パッド目印部３０が前後接合部６２に近くに配置されているため、前後方向Ｌにおける起立部６１の起立端縁６１ＬＥ（すなわち、前後接合部６２の前端縁６２Ｆ）と幅方向Ｗにおける起立部６１の起立端縁６１ＷＥとにより構成されるポケット（空間）の角部が視覚に入り易くなる。吸収パッド１００の端部の外側縁（すなわち、角部１００Ｃ）は、ポケットの角部付近に入れ易いため、装着補助者に、ポケットの角部を意識させることで、装着補助者が起立部６１の非肌面側Ｔ２へ吸収パッド１００を入れ込むことを誘導できる。また、ポケットの角部は、起立部６１が起立し始める部分であるため、ポケットの角部の周辺は、起立部６１の起立高さが低くなる。吸収パッド１００をポケットの角部付近に入れ込むことで、吸収パッド１００が幅方向Ｗだけでなく、前後方向Ｌにもずれ難くなる。その結果、吸収パッド１００の吸収性能を十分に発揮できたり、吸収パッド１００のずれによる装着感の悪化を抑制できたりする。

[0061] また、パッド目印部３０の少なくとも一部は、ファスニングテープ９０の前端縁９０Ｆよりも後方に配置されてよい。ファスニングテープ９０が前胴回り域Ｓ１に止着されることで、ファスニングテープ９０の前端縁９０Ｆよりも後側の領域が着用者の身体に密着するため、吸収パッド１００が理想的な位置からずれ難くなる。その結果、吸収パッド１００の吸収性能を十分に発揮できたり、吸収パッド１００のずれによる装着感の悪化を抑制できたりする。

[0062] また、パッド目印部３０の少なくとも一部は、ファスニングテープ９０の後端縁９０Ｒよりも前方に配置されてよい。これにより、吸収パッド１００の位置をパッド目印部３０に合わせた状態で、ファスニングテープ９０が前胴回り域Ｓ１に止着されることで、ファスニングテープ９０の前端縁９０Ｆと後端縁９０Ｒとの間の領域が着用者の身体に密着するため、吸収パッド１００の端部の位置がパッド目印部３０からさらにずれ難くなる。

[0063] また、パッド目印部３０の少なくとも一部は、吸収コア５０の外側縁５０

Ｅよりも幅方向Ｗの内側で吸収コア５０と厚さ方向Ｔに重なる位置に配置されてよい。一般的に、吸収パッド１００の端部は、吸収パッド１００から排泄物が漏れ出ても吸収コア５０が漏れ出た排泄物を吸収できるように、吸収コア５０の外側縁５０Ｅよりも幅方向Ｗの内側に配置される。パッド目印部３０の少なくとも一部が吸収コア５０の外側縁５０Ｅよりも幅方向Ｗの内側に配置されることで、吸収パッド１００の端部が吸収コア５０と重なるように、装着補助者が、吸収性物品１０に吸収パッド１００を正しく装着し易くなる。また、吸収コア５０は、一般的に、吸収性物品１０を構成する他の構成部材よりも厚いため、吸収コア５０が配置されている領域は、他の領域に比べて、光透過性が低い。従って、パッド目印部３０が、吸収コア５０よりも肌面側Ｔ１に配置される場合には、吸収コア５０の外側縁５０Ｅよりも内側に配置されるパッド目印部３０の少なくとも一部の視認性が、吸収性物品１０が置かれている床などの載置面の影響を受け難くすることができる。

[0064] また、パッド目印部３０は、防漏カフ６０を構成するシートよりも非肌面側に配置されてよい。これにより、パッド目印部３０が、着用者の肌に直接接触しないため、パッド目印部３０に起因した着用者の肌への影響（例えば、パッド目印部３０がインクによる印字により設けられる場合、肌へのインク移り、又はインクによる肌へのダメージなど）を抑制できる。

[0065] また、パッド目印部３０は、起立端縁９１ＷＥを跨ぐように配置されてよい。起立端縁９１ＷＥよりも幅方向Ｗの内側の領域では、パッド目印部３０が起立部６１によってはっきりとは視認できない一方で、起立端縁９１ＷＥよりも幅方向Ｗの外側の領域では、防漏カフ６０を構成するサイドシート４１ｂが固定されているため、パッド目印部３０が、サイドシート４１ｂよりも非肌面側Ｔ２に配置されていても、上記内側の領域よりもパッド目印部３０を明瞭に視認し易い。このため、装着補助者が、内側の領域におけるパッド目印部３０を明瞭に視認しようとして起立部６１をめくり易くなる。起立部６１のめくりを誘導することで、装着補助者が起立部６１の非肌面側Ｔ２へ吸収パッド１００を入れ込むことを誘導できる。

[0066] また、パッド目印部３０は、収縮部材と厚さ方向Ｔに重ならない領域に配置されてよい。これにより、パッド目印部３０が配置されている領域が収縮部材の収縮により収縮し難くなり、パッド目印部３０の視認性が低下することを抑制できる。

[0067] また、パッド目印部３０は、吸収パッド１００の端部の配置位置の前後方向Ｌの範囲を示してよい。これにより、装着補助者は、パッド目印部３０で示された範囲内で吸収パッド１００の端部の配置を自由に調整できることを想起できる。適切な装着のために吸収パッド１００の端部をピンポイントに配置しなければならないという装着補助者の精神的負荷を低減できる。また、吸収パッド１００の端部をピンポイントに配置する場合と比較して、吸収パッド１００の端部の配置位置を調整する時間を低減できるため、装着時間を短縮し易くなる。

[0068] また、吸収パッド１００のサイズは、吸収パッド１００を製造する製造業者によって異なることがある。装着補助者は、パッド目印部３０で示された範囲内で吸収パッド１００の端部の配置を自由に調整できるため、吸収性物品１０に装着される吸収パッド１００が制限され難くなると共に、吸収パッド１００をより適切な位置に配置することができる。また、複数の装着補助者が、着用者に吸収性物品１０を装着する場合であっても、パッド目印部３０が吸収パッド１００の端部の配置位置をピンポイントで示す場合と比較して、各装着補助者がパッド目印部３０で示された範囲内に、吸収パッド１００の端部の配置を自由に調整できる。従って、複数の装着補助者のそれぞれが、吸収性物品１０に吸収パッド１００を適切に装着できる。

[0069] また、パッド目印部３０は、パッド目印部３０が吸収パッド１００を装着するための目印であることを図形により示してよい。これにより、装着補助者は、パッド目印部３０が吸収パッド１００を装着するためのものであることを理解し易くなる。着用者の身体などの他のものをパッド目印部３０に合わせ難くなり、吸収性物品１０に吸収パッド１００を適切に装着できる。

[0070] また、パッド目印部３０は、パッド目印部３０が吸収パッド１００を装着

するための目印であることを文字により示してよい。これにより、文字を視認した装着補助者は、パッド目印部３０によって吸収パッド１００を配置すべきことが認識できるため、装着補助者が、パッド目印部３０を基準として、着用者の身体などの別のものを誤って配置することを低減できる。

[0071] また、パッド目印部３０と身体目印部２０とは、前後方向Ｌにおいて離れていてよい。これにより、着用者は、パッド目印部３０が身体目印部２０と異なるものであることを認識し易くなり、吸収パッド１００の端部を誤って身体目印部２０の位置に合わせることを低減できる。

[0072] また、パッド目印部３０の少なくとも一部は、身体目印部２０と前後方向Ｌに重なってよい。これにより、身体目印部２０を発見した際に、視線を前後方向Ｌに動かすことでパッド目印部３０を発見できるため、装着補助者がパッド目印部３０を発見し易くできる。従って、パッド目印部３０を発見した装着補助者は、パッド目印部３０を基準として吸収パッド１００の端部の位置を合わせるため、防漏カフ６０を意識し易くなり、装着補助者が起立部６１の非肌面側Ｔ２へ吸収パッド１００を入れ込むことを誘導できる。

[0073] また、パッド目印部３０と身体目印部２０は、ファスニングテープ９０の前端縁９０Ｆよりも後方に配置されてよい。これにより、身体目印部２０を発見した際に、視界にパッド目印部３０も入り易くなるため、装着補助者がパッド目印部３０を発見し易くできる。従って、パッド目印部３０を発見した装着補助者は、パッド目印部３０を基準として吸収パッド１００の端部の位置を合わせるため、防漏カフ６０を意識し易くなり、装着補助者が起立部６１の非肌面側Ｔ２へ吸収パッド１００を入れ込むことを誘導できる。

[0074] （６）その他実施形態

以上、上述の実施形態を用いて本発明について詳細に説明したが、当業者にとっては、本発明が本明細書中に説明した実施形態に限定されるものではないということは明らかである。本発明は、特許請求の範囲の記載により定まる本発明の趣旨及び範囲を逸脱することなく修正及び変更態様として実施することができる。したがって、本明細書の記載は、例示説明を目的とする

ものであり、本発明に対して何ら制限的な意味を有するものではない。

[0075] 上述の実施形態では、身体目印部２０は、着用者の骨として着用者の腸骨稜の配置位置を示していたが、これに限られない。身体目印部２０は、着用者の骨として、例えば、仙骨、腸骨、腰椎（例えば、第３腰椎、第４腰椎、第５腰椎など）、恥骨、尾骨、大転子などのいずれかの配置位置を示してもよい。

[0076] また、第１身体目印部２１は、第１パッド目印部３１と同様に、矢印により、着用者の骨の配置位置の前後方向Ｌの範囲を示してよい。第１パッド目印部３１は、第１身体目印部２１と同様に、前後方向Ｌの外側へ向かうにつれて幅方向Ｗの内側へ延びる第１部分と、第１部分２１１から前後方向Ｌの外側へ向かうにつれて幅方向Ｗの外側へ延びる第２部分と、により構成されてよい。

[0077] 上述の実施形態において、吸収性物品１０は、身体目印部２０及びパッド目印部３０以外の目印部を有してよい。例えば、吸収性物品１０は、ファスニングテープ９０の止着位置をガイドする目印部を有してよい。これにより、ファスニングテープ９０の斜め止めを誘導してもよい。

[0078] 上述の実施形態では、吸収性物品１０は、身体目印部２０を有していたが、これに限られない。吸収性物品１０は、身体目印部２０を有さなくてよい。吸収性物品１０は、身体目印部２０が用いられずに、着用者に装着されてもよい。

[0079] なお、２０２０年６月１９日に出願された日本国特許出願第２０２０－１０６５０５号の全内容が、参照により、本明細書に組み込まれる。

産業上の利用可能性

[0080] 立部の非肌面側へ吸収パッドを入れ込むことを誘導し易い吸収性物品を提供することができる。

符号の説明

[0081] １０：吸収性物品、２０：身体目印部（他の目印部）、３０：パッド目印部（目印部）、６０：防漏カフ、６１：起立部、６１ＷＥ：起立端縁、６２：

前後接合部、９０：ファスニングテープ、９６：係合部、９６１：第１係合部、９６２：第２係合部、ＣＲ：中央領域、ＩＣ：腸骨稜、Ｓ１：前胴回り域、Ｓ２：後胴回り域、Ｓ３：股下域

請求の範囲

[請求項1] 前後方向及び前記前後方向に直交する幅方向と、

前記前後方向に延び、かつ吸収性物品の前記幅方向の中心である幅中心を挟んで両側に配置された一対の防漏カフと、を有し、

前記防漏カフは、

前記前後方向における収縮により起立端縁から肌面側に向かって起立可能な起立部と、

前記起立部よりも前記前後方向の外側に位置し、かつ前記肌面側に向かって起立不能に接合された前後接合部と、を有し、

吸収パッドを装着可能である吸収性物品であって、

前記前後方向における前記吸収パッドの端部の配置位置を示す目印部を有し、

前記目印部の少なくとも一部は、前記起立端縁よりも前記幅方向の外側かつ前記前後接合部よりも前記前後方向の内側に配置される、吸収性物品。

[請求項2] 前記前後接合部から前記目印部までの長さは、前記前後方向における前記目印部の最大長さよりも短い請求項１に記載の吸収性物品。

[請求項3] 前胴回り域、後胴回り域、及び前記前胴回り域及び前記後胴回り域との間に配置された股下域と、

前記後胴回り域に配置され、かつ前記前胴回り域に止着されるファスニングテープと、を有し、

前記目印部の少なくとも一部は、前記ファスニングテープの前端縁よりも後方に配置される請求項１又は２に記載の吸収性物品。

[請求項4] 前記目印部の少なくとも一部は、前記ファスニングテープの後端縁よりも前方に配置される請求項３に記載の吸収性物品。

[請求項5] 吸収コアを有し、

前記目印部の少なくとも一部は、前記吸収コアの外側縁よりも前記幅方向の内側で前記吸収コアと厚さ方向に重なる位置に配置される請

求項１から４のいずれか１項に記載の吸収性物品。

[請求項6] 前記目印部は、前記防漏カフを構成するシートよりも非肌面側に配置される請求項１から５のいずれか１項に記載の吸収性物品。

[請求項7] 前記目印部は、前記起立端縁を跨ぐように配置される請求項６に記載の吸収性物品。

[請求項8] 収縮性を有する収縮部材を有し、

前記目印部は、前記収縮部材と厚さ方向に重ならない領域に配置されている請求項１から７のいずれか１項に記載の吸収性物品。

[請求項9] 前記目印部は、前記吸収パッドの端部の配置位置の前記前後方向の範囲を示す請求項１から８のいずれか１項に記載の吸収性物品。

[請求項10] 前記目印部は、前記目印部が前記吸収パッドを装着するための目印であることを図形により示す請求項１から９のいずれか１項に記載の吸収性物品。

[請求項11] 前記目印部は、前記目印部が前記吸収パッドを装着するための目印であることを文字により示す請求項１から１０のいずれか１項に記載の吸収性物品。

[請求項12] 前記目印部と異なるデザインにより構成されている他の目印部を有し、

前記目印部と前記他の目印部とは、前記前後方向において離れている請求項１から１１のいずれか１項に記載の吸収性物品。

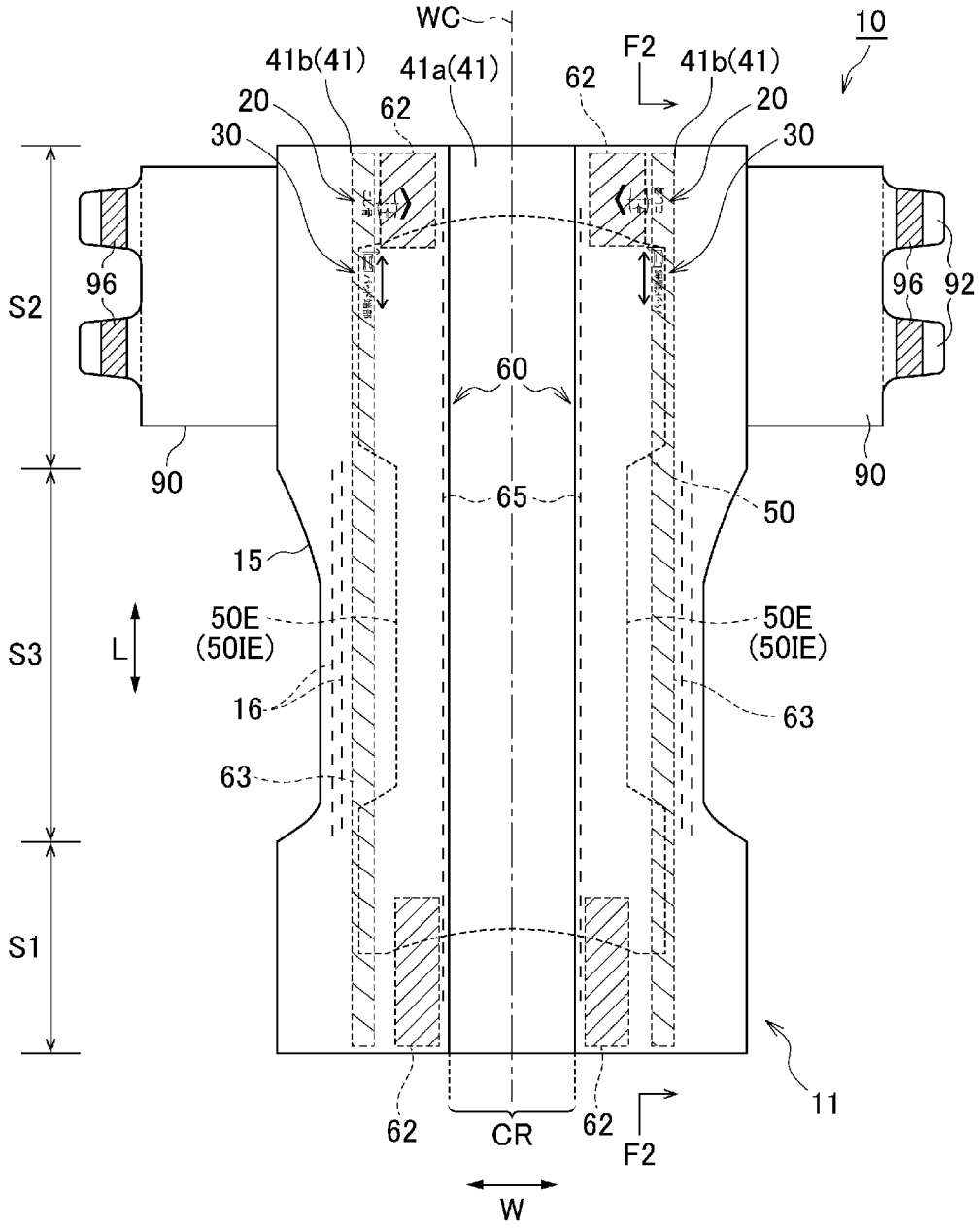
[請求項13] 前記目印部の少なくとも一部は、前記他の目印部と前記前後方向に重なっている請求項１２に記載の吸収性物品。

[請求項14] 前胴回り域、後胴回り域、及び前記前胴回り域及び前記後胴回り域との間に配置された股下域と、

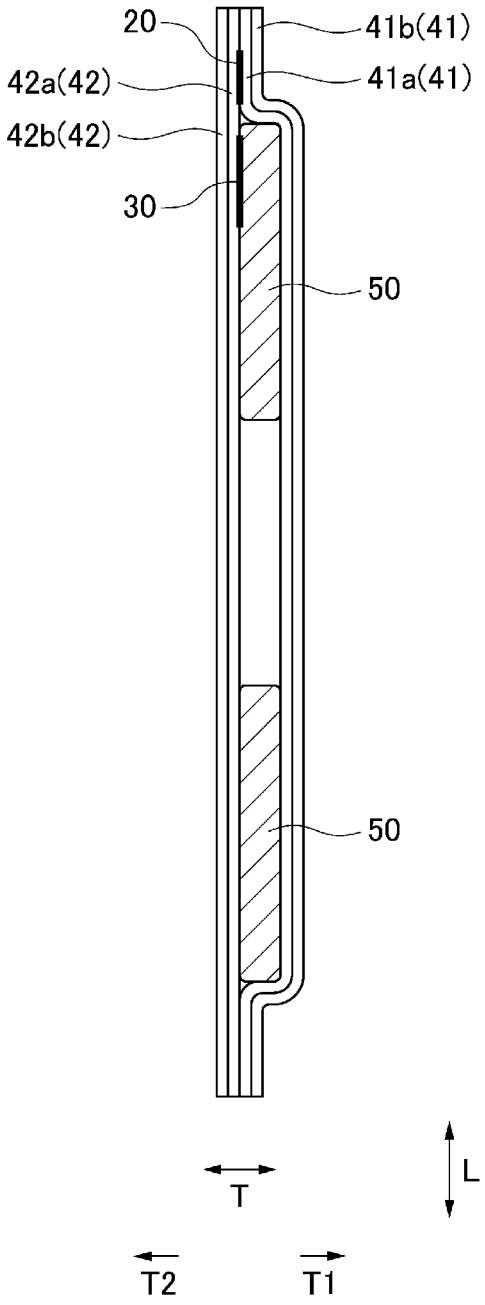
前記後胴回り域に配置され、かつ前記前胴回り域に止着されるファスニングテープと、を有し、

前記目印部と前記他の目印部は、前記ファスニングテープの前端縁よりも後方に配置される請求項１２又は１３に記載の吸収性物品。

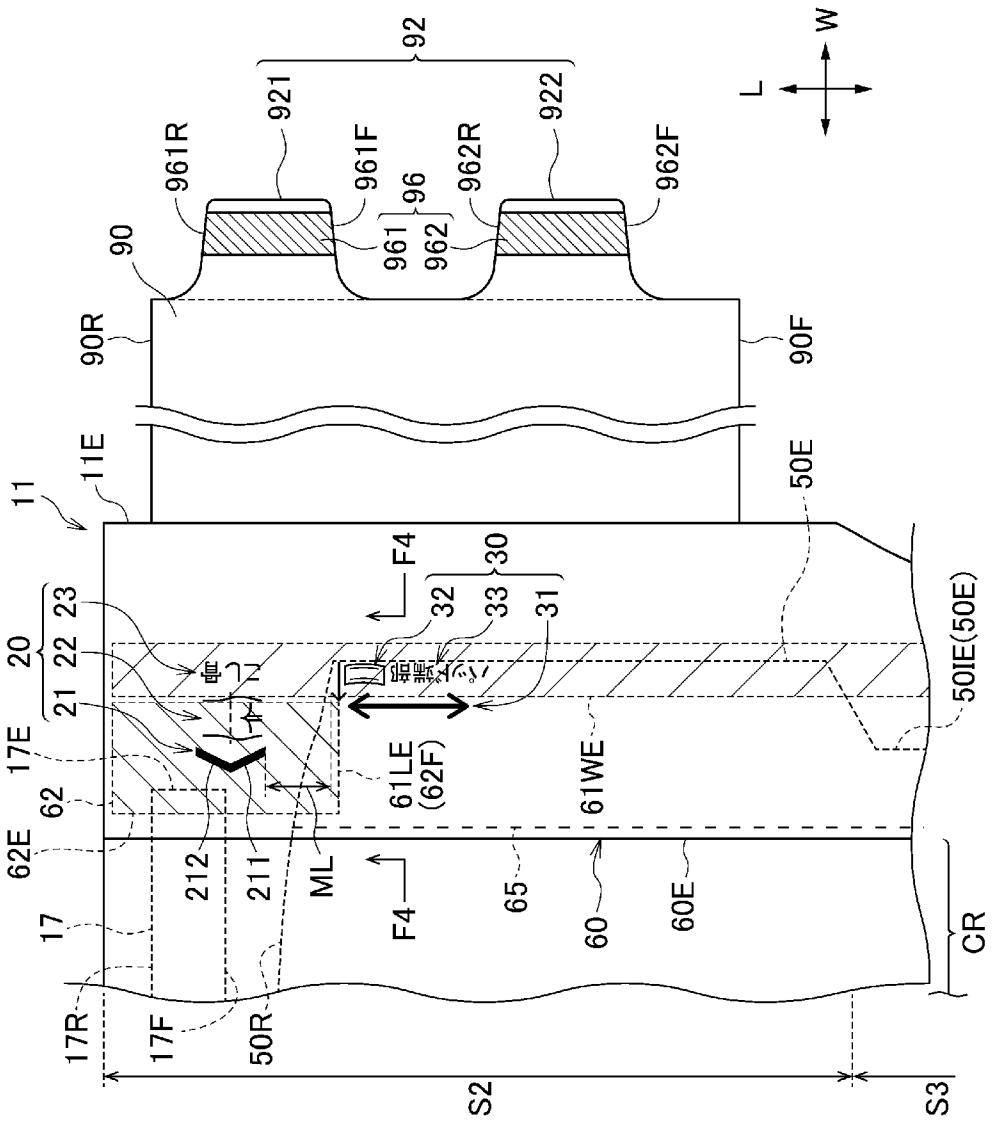
[図1]


WC
10
41b(41)
41a(41)
62
F2
41b(41)
20
62
20
30
30
96
96
92
S2
60
90
90
65
50
15
S3
L
50E
(50IE)
50E
(50IE)
16
63
63
S1
11
62
CR
62
F2
W

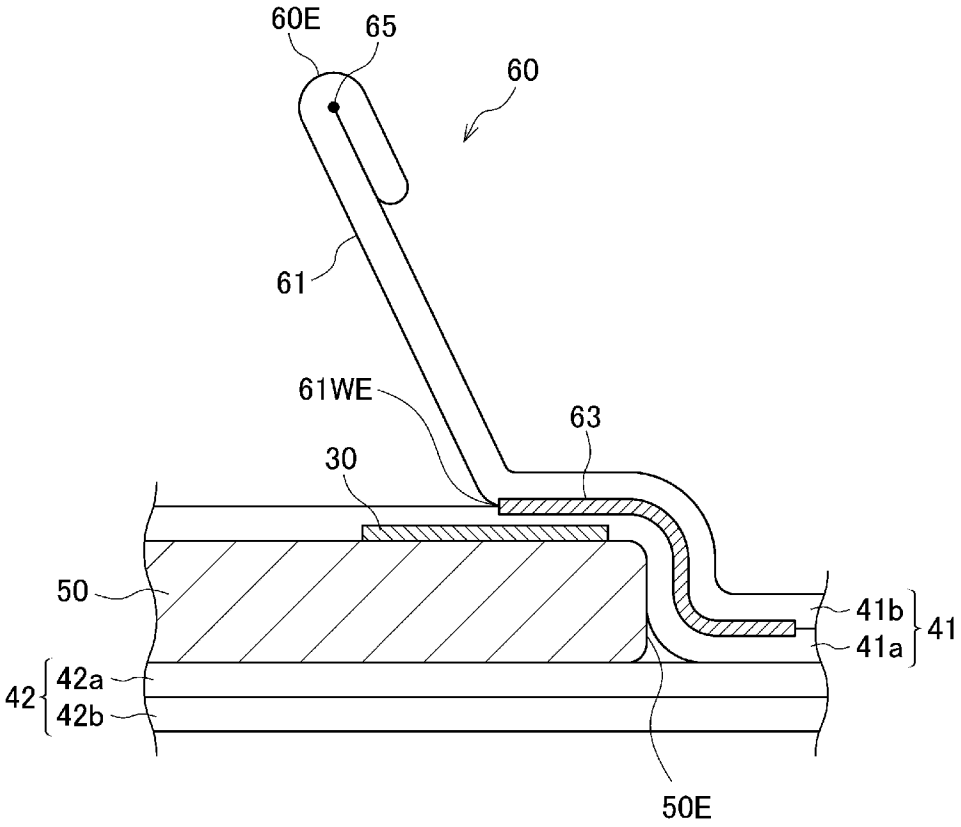
[図2]



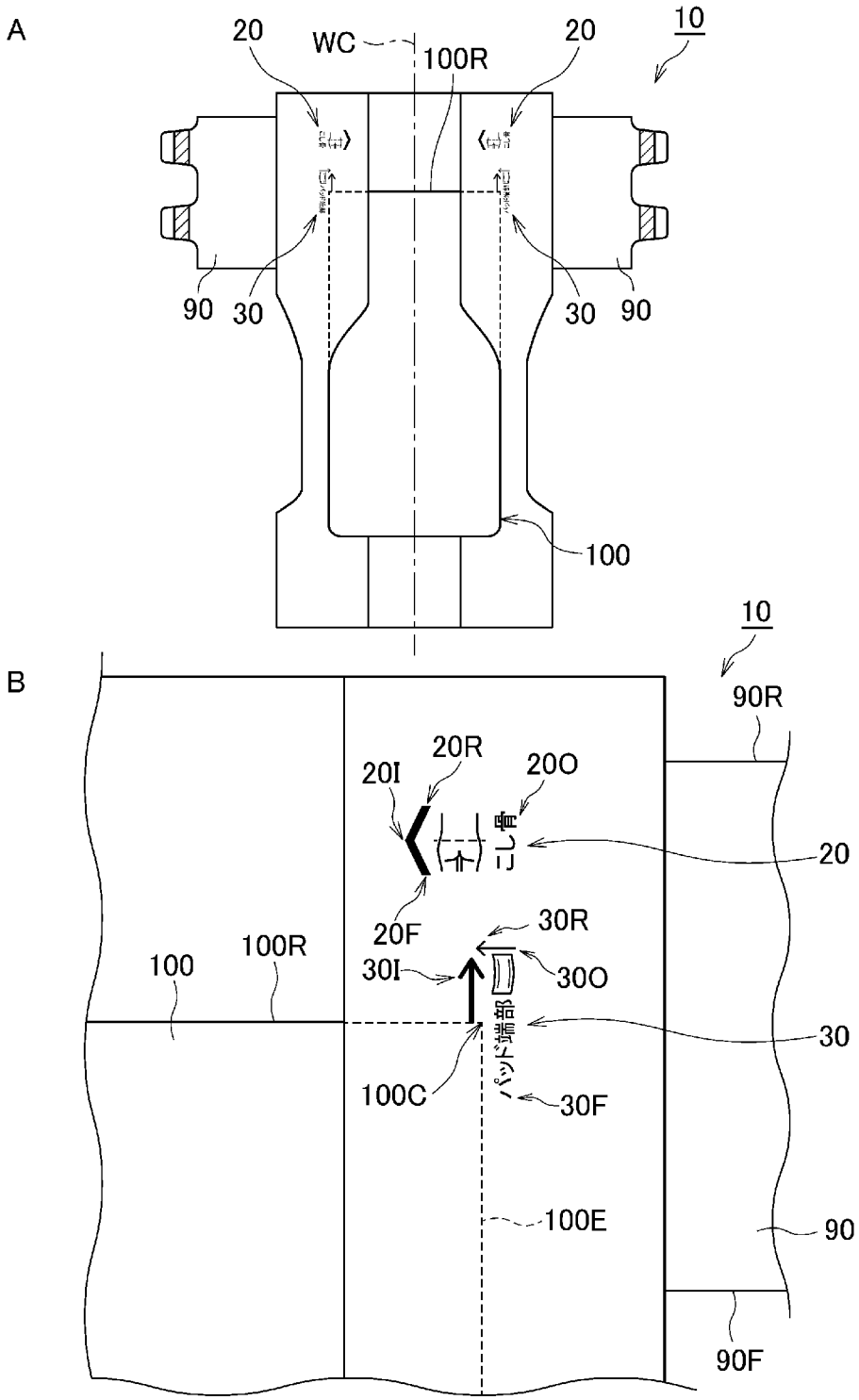
[図3]


W
L
92
921
922
961R
961F
962R
962F
96
961
962
90
90R
90F
11
11E
50E
F4
30
32
33
31
23
20
22
21
17E
62
62E
61LE
(62F)
61WE
50IE(50E)
212
211
ML
65
60
60E
CR
17
17R
17F
50R
S2
S3

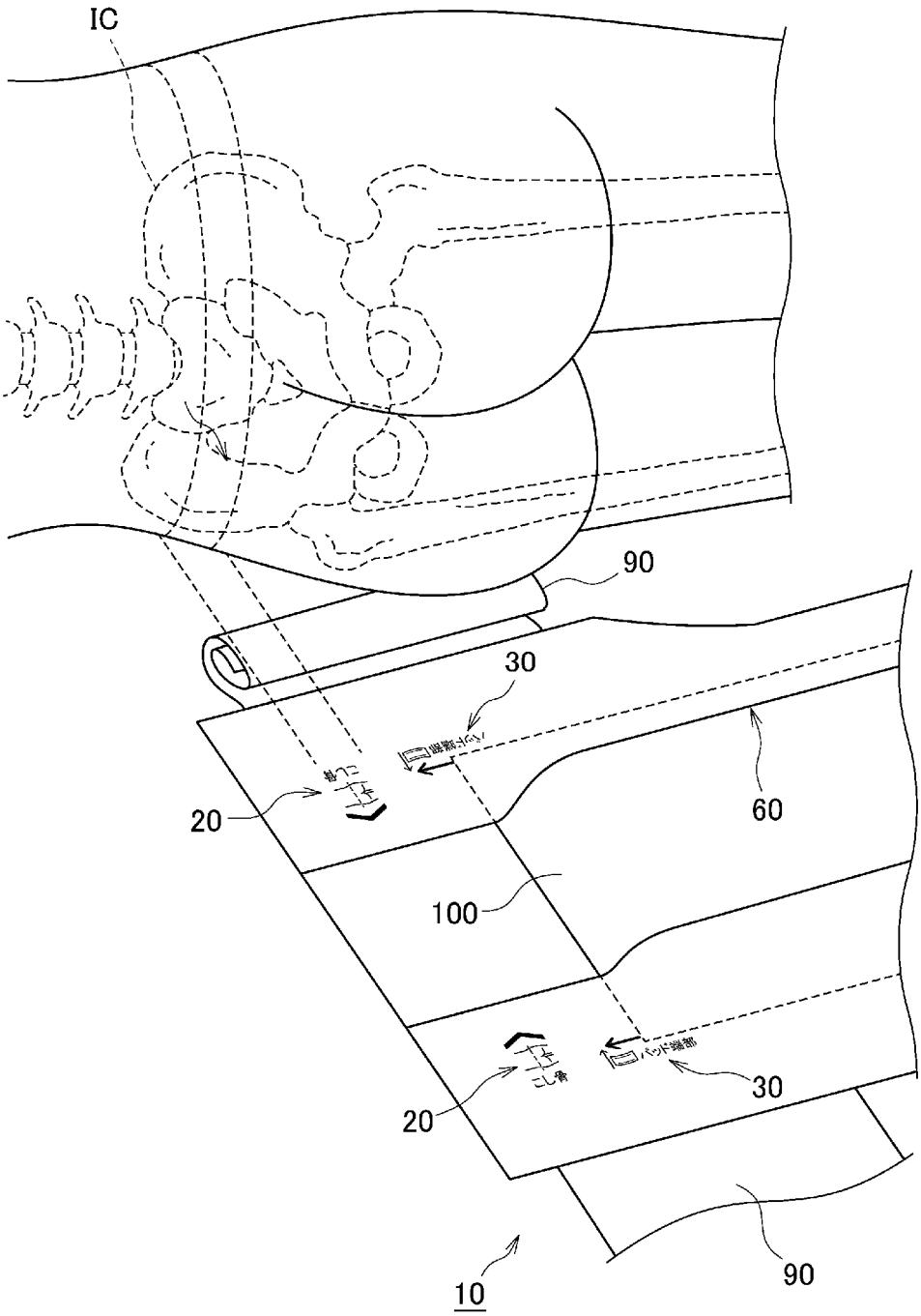
[図4]



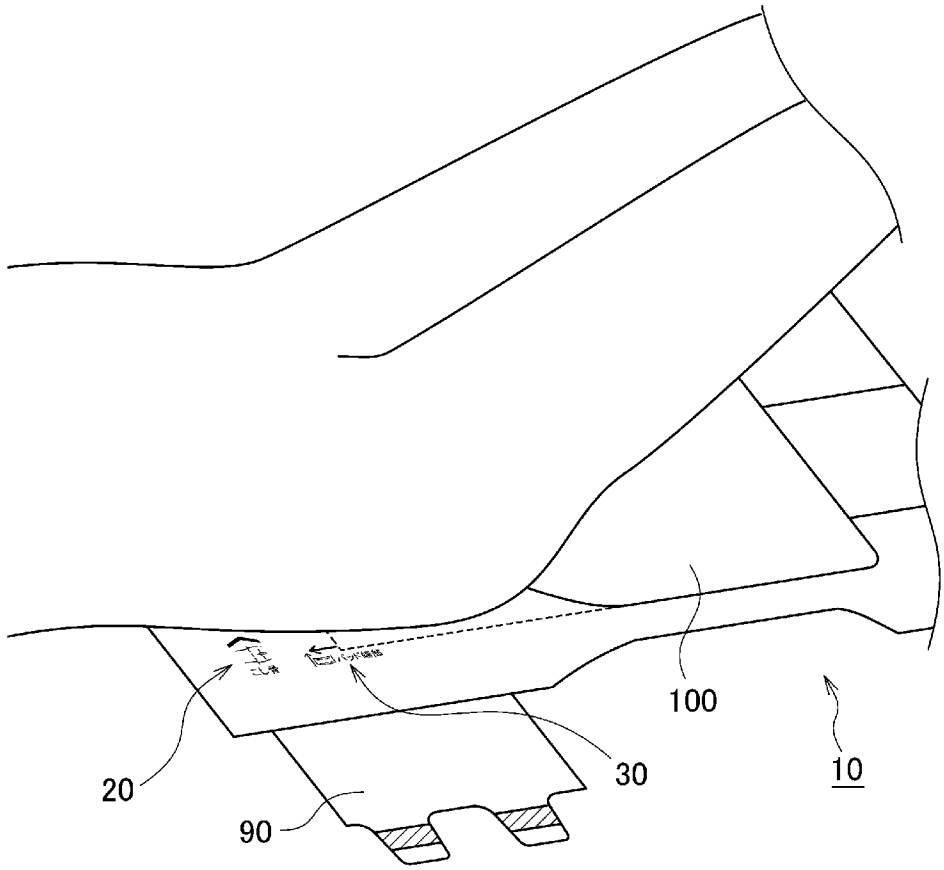
[図5]


A
20
WC
100R
20
10
90
30
30
90
100
B
10
90R
20R
20I
20O
20
20F
30R
100
100R
30I
30O
30
100C
30F
100E
90
90F

[図6]

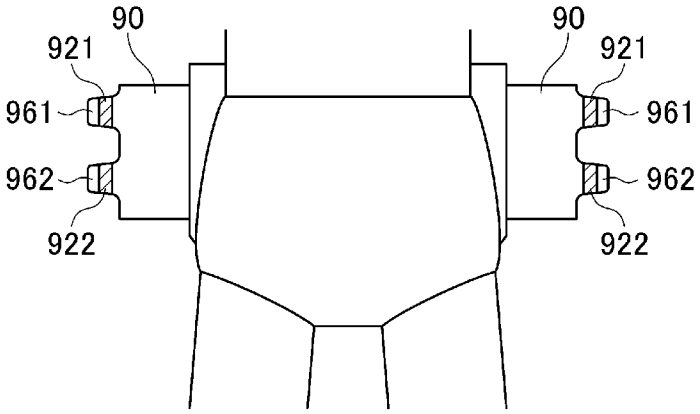


[図7]

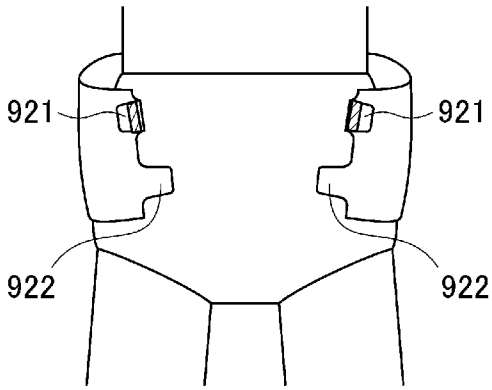


[図8]

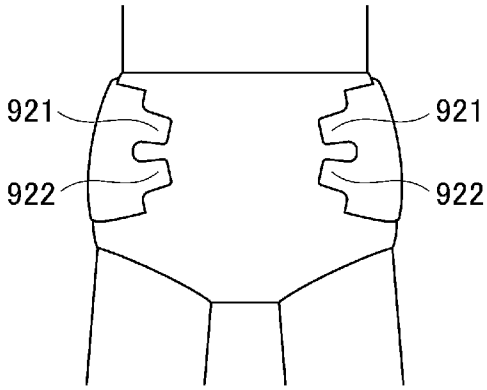
A


90
921
961
962
922
90
921
961
962
922

B


921
921
922
922

C


921
921
922
922

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.
PCT/JP2021/021931

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER
A61F 13/493(2006.01)i; A61F 13/494(2006.01)i; A61F 13/505(2006.01)i; A61F 13/56(2006.01)i
FI: A61F13/505 100; A61F13/494 110; A61F13/56 210; A61F13/493

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)
A61F13/493; A61F13/494; A61F13/505; A61F13/56

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Published examined utility model applications of Japan	1922-1996
Published unexamined utility model applications of Japan	1971-2021
Registered utility model specifications of Japan	1996-2021
Published registered utility model applications of Japan	1994-2021

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X Y	JP 2003-93438 A (DAIO PAPER CORP.) 02 April 2003 (2003-04-02) paragraphs [0014]-[0028], fig. 1	1-7, 10-14 8-14
Y	JP 2019-25139 A (UNI-CHARM CORP.) 21 February 2019 (2019-02-21) paragraph [0047]	8-14
Y	JP 2020-49018 A (DAIO PAPER CORP.) 02 April 2020 (2020-04-02) paragraph [0045]	8-14
Y	JP 2007-229199 A (HAKUJUJI CO., LTD.) 13 September 2007 (2007-09-13) paragraph [0049], fig. 7	9-14

☐ Further documents are listed in the continuation of Box C.

☒ See patent family annex.

* Special categories of cited documents:
"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance
"E" earlier application or patent but published on or after the international filing date
"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)
"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means
"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed
"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention
"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone
"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art
"&" document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search	Date of mailing of the international search report
18 August 2021 (18.08.2021)	31 August 2021 (31.08.2021)

Name and mailing address of the ISA/	Authorized officer
Japan Patent Office 3-4-3, Kasumigaseki, Chiyoda-ku, Tokyo 100-8915, Japan	Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT
Information on patent family members

International application No.
PCT/JP2021/021931

Patent Documents referred in the Report	Publication Date	Patent Family	Publication Date
JP 2003-93438 A	02 Apr. 2003	(Family: none)	
JP 2019-25139 A	21 Feb. 2019	(Family: none)	
JP 2020-49018 A	02 Apr. 2020	(Family: none)	
JP 2007-229199 A	13 Sep. 2007	(Family: none)	

国際調査報告

国際出願番号
PCT/JP2021/021931

A. 発明の属する分野の分類（国際特許分類（ＩＰＣ））

A61F 13/493(2006.01)i; A61F 13/494(2006.01)i; A61F 13/505(2006.01)i; A61F 13/56(2006.01)i
FI: A61F13/505 100; A61F13/494 110; A61F13/56 210; A61F13/493

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料（国際特許分類（ＩＰＣ））

A61F13/493; A61F13/494; A61F13/505; A61F13/56

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報	１９２２－１９９６年
日本国公開実用新案公報	１９７１－２０２１年
日本国実用新案登録公報	１９９６－２０２１年
日本国登録実用新案公報	１９９４－２０２１年

国際調査で使用した電子データベース（データベースの名称、調査に使用した用語）

C. 関連すると認められる文献

引用文献のカテゴリー*	引用文献名　及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する請求項の番号
X	JP 2003-93438 A (大王製紙株式会社) 02.04.2003 (2003-04-02) 段落[0014]-[0028],図1	1-7,10-14
Y		8-14
Y	JP 2019-25139 A (ユニ・チャーム株式会社) 21.02.2019 (2019-02-21) 段落[0047]	8-14
Y	JP 2020-49018 A (大王製紙株式会社) 02.04.2020 (2020-04-02) 段落[0045]	8-14
Y	JP 2007-229199 A (白十字株式会社) 13.09.2007 (2007-09-13) 段落[0049],図7	9-14

☐ Ｃ欄の続きにも文献が列挙されている。

☑ パテントファミリーに関する別紙を参照。

＊ 引用文献のカテゴリー
“A” 特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの
“E” 国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの
“L” 優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献（理由を付す）
“O” 口頭による開示、使用、展示等に言及する文献
“P” 国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願の日の後に公表された文献
“T” 国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と抵触するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの
“X” 特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの
“Y” 特に関連のある文献であって、当該文献と他の１以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの
“&” 同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日	国際調査報告の発送日
18.08.2021	31.08.2021

名称及びあて先
日本国特許庁(ISA/JP)
〒100-8915
日本国
東京都千代田区霞が関三丁目４番３号

権限のある職員（特許庁審査官）
▲高▼辻　将人 3B 9823
電話番号 03-3581-1101 内線 3320

国際調査報告
パテントファミリーに関する情報

国際出願番号
PCT/JP2021/021931

引用文献	公表日	パテントファミリー文献	公表日
JP 2003-93438 A	02.04.2003	（ファミリーなし）	
JP 2019-25139 A	21.02.2019	（ファミリーなし）	
JP 2020-49018 A	02.04.2020	（ファミリーなし）	
JP 2007-229199 A	13.09.2007	（ファミリーなし）	